旅

テンプルステイ　韓国

禁酒、禁煙　お寺で精進

禁酒、禁煙、早寝、早起き―すべて苦手な記者が、寺に泊まって僧の日常を体験する「テンプルステイ」を取材するはめに。「おまえの薄い頭は僧と同じだからできる」っていう上司のきつい一言で決まった。それは日本ではなく、韓国。頭を振りつつ修行の旅へ。

テンプルステイのプログラムは日本とほぼ同じだが、宿坊ではなく寺に泊まる。宗派は問わない。礼拝や座禅、清掃などを通して自分を見つめる。食事は精進料理（鉢盂供養）。目指す寺はソウル市から高速道などをバスで三時間半走って朝鮮半島を横断し、日本海（韓国では東海）側にある江原道の「月精寺」。新羅時代の六四三年に創建されたという、モミの木に囲まれた古刹だった。

韓国の仏教は三国時代の四世紀ごろに伝えられ千七百年の歴史を誇る。代表する宗派は日本の曹洞宗に当たる大韓仏教曹溪宗。約三千の寺院を擁し、月精寺もその一つだ。

韓国仏教界は修行に重きを置いてきたが門戸を開こうと、二〇〇二年のサッカー・日韓ワールドカップ（W杯）をきっかけにテンプルステイを始めた。さらに〇八年、韓国では寺を巡る習慣がないため日本の四国八十八カ所巡りなどをモデルに「三十三観音聖地」を定め、寺を巡って体験する旅を韓国観光公社と開始した。

入寺前に曹溪宗の総本山、ソウル市内の曹溪寺（三十三観音聖地第二番）へ。折しも「日中韓三十三観音聖地法要」があり、聖地制定に協力した岐阜県揖斐川町の大興寺・井川周文住職や名古屋市の地蔵寺一行が参列していた。井川住職は「韓国には歴史のある寺が多数あるが、日本人はほとんど知らない。ぜひ見てほしい。国や人種が違っても心は一つ」と話した。曹溪寺ではその夜にある伝統の祭り「燃灯祝祭」にちなみ、境内や本堂などいたる所に色とりどりの提灯が飾られ、壮観だった。

月精寺（同二十八番）へは午後四時着。禁酒、禁煙の始まりだ。自信のない記者は用意した禁煙パイプ、禁煙ガムを懐に忍ばせ、赤い作務衣に着替えた。入寺式で僧侶の清霊さんから心得を聞き、礼拝（礼仏）の方法を学ぶ。大きくて優しげな目をして、とても五十歳に見えない若々しい清霊さんの「心を照らす修行です」に納得した。

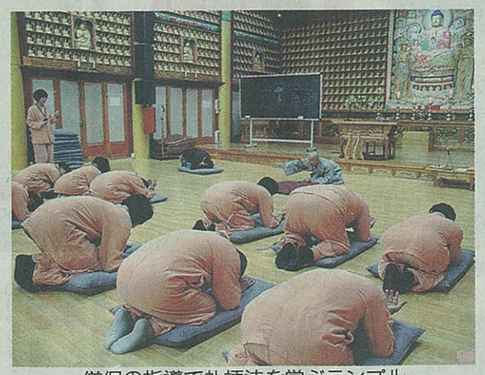
座布団が縦に長い訳も分かった。礼拝は座布団の端に立ち、両ひざをつきながら両手を伸ばしつつ体を前に倒し、両ひじをついて頭を垂れ、額を座布団につけるからだ。立ち上がるときは両手のひらを返しつつ…。五木寛之氏の小説「親鸞」では「好相行」「五体投地」の動作と記され、天竺の最敬礼の作法だそうだ。木魚の合図で立って座ってまた立って。これがつらい。修行僧は一日に三千回するという。翌朝、煩悩の数だけやると告げられる。朝といっても四時起床、五時本堂で。

練習後、白米にキムチなどの質素な食事をして、鐘つきや清霊さんと茶会をしながら説法を聞き午後九時、相部屋の大部屋で就寝。床はオンドル（暖房装置）が配管され温かく、うつらうつらしていたらもう起こされた。たばこを吸いたいと思う間なし。この調子でいくと、生涯禁煙も平気かも、と思う。真っ暗な中、本堂に向かう。僧侶二十数人、一般参拝者数十人と礼拝開始。汗だくになりつつ、百八回した。

ほかに観光もしたが、ホテルに着くころにはマッサージの営業は終わっていたし、レストランも閉店、シャワーを浴びて寝ただけ。キムチは苦手だったが、どうにか慣れた。特に青唐辛子のキムチは口が曲がるほど辛かった。浅田次郎氏の旅コラムによると、その状態は「舌が焼ける」というらしい。すべてが修行だった。帰国後、出社したら同僚に「頭丸めてきた!?」と言われ、「ノー」と答えつつも悟りの心境ではあった。

文・写真　東条敏明

「燃灯祝祭」にちなみ、曹溪寺境内に飾られた色とりどりの提灯＝ソウル市で


僧侶の指導で礼拝法を学ぶテンプルステイの参加者＝江原道の月精寺で

曹溪寺で修行する子どものお坊さん＝ソウル市で

メモ

◆交通　ソウルへは中部国際空港、成田国際空港などから大韓航空、アシアナ航空、日本航空、全日空などの定期便が就航。

◆テンプルステイ　約80寺で可能。１泊２日で5000円くらい。寺によっては対応に慣れてないので、旅行会社を通した方が無難。

◆問い合わせ　韓国観光公社東京支社＝電03（3597）1717、韓の国33観音聖地日本事務局（福岡市）＝電092（716）0091

おすすめ

★洛山寺（ナクサンサ）＝写真　韓国三十三観音聖地第27番で江原道沖の海が望める。高台に立つ高さ16㍍の「海水観音像」からの眺めがよく日の出の名所。紅葉、スキーが楽しめる。

★北村韓屋村（ブクチョン）　ソウルの大統領府から近い。朝鮮時代に高級官僚が住んだ。石やれんがをはめ込んだ塗り壁が続き、黒瓦の屋根先が跳ね上がった伝統家屋が並び、昔ながらの路地が入り組んで情緒満点。テレビドラマ「冬のソナタ」のロケ地として有名。

★ツアー　「韓国三十三観音聖地を巡る旅」東南圏コース５日間11万9000円。７月21日後３時５分、中部国際空港出発。釜山・梵魚寺、慶州・仏国寺、大邱・桐華寺などを巡る。３日目に金泉・直指寺でテンプルステイ。25日後２時５分、中部国際空港着▽９月１日出発の南部圏コース４日間10万7000円▽10月21日出発の東北圏コース４日間13万9000円も。問い合わせは中日旅行会＝電052（231）0799。

過去の記事は東京（中日）新聞ホームページ「旅行」の「ぶらっ人旅だより」でご覧いただけます。アドレスはhttp://tabi.chunichi.co.jp